

令和2年度 中山間地域における特色ある学校づくり推進事業 研究発表会

10月23日に行われた研究発表会では、2年間取り組んできた北川学の取組について発信しました。小1、小6、中3の公開授業では、自分の思いや考えを伝え合い、課題解決に向けて学び合う姿が印象的でした。これまで、多くの地域の方のサポートも受けながら一緒に活動することで、地域のことをより知り、地域のために自分たちができていることを考え、取り組む力も高まってきました。多くの学びがあり、また、課題もいくつか確認できました。めざす子ども像に向け、さらに頑張っていきましょう。



1年 学校たんけん 春みつけ



2年 わくわく どきどき 村たんけん



3年 北川村のすご〜い人のひみつをさがそう



4年 北川村のゆずのすごさをもっと見つけよう



5年 モネの庭の魅力を見つけよう



6年 守ろう!北川ライフ



中1 だれもが元気になる村づくりを考えよう



中2 北川村のゆず産業の課題解決に向けて考えよう



中3 豊かな地域社会への貢献と自己の生き方を考えよう



授業記録、村の「人・もの・こと」バンク



3年のかかしがおもてなし



2年間の研究報告

共通取組事項!

★内発的動機づけ・情意面の働きかけ



自分事として考えさせる。

★子どもたちのやりといで考えを深めさせる (子どもに任せる)

★探究的な学びを全教科で

言語能力、資料活用能力の向上 (教科を横断)

★答えのない問題に対してどう進めるか

一人ひとりが持続可能な社会の創り手となる人材づくり

小1、小6、中3の授業映像
「中山間」⇒「校内研修」に
あります。ぜひ見てください。

白川AD講話

研究の取組について

- ★学びの足跡
 - ★授業記録
 - ★北川村の「人・もの・こと」バンク
- 継続した取り組みへ
財産を残して活用
(子どもの成長に応じて資料を活用していこう)



★各学年の取組共有 (夏休み中) ⇒小中の指導の在り方を考える

指導案・授業について(6年)

○単元観

教師の願いが明確に書かれていてよい。(単元を通して付けたい力)

○指導観

- ・子どもの姿で書かれていてよい。
- ・各単元の役割も明確でよい。

○単元の流れ

・小単元2で、学習発表会と防災フェスティバルを平行して計画しているが、小単元3でフェスティバルの計画を入れるといい。

○本時の授業

- ・児童は頑張っていた。
- ・ピラミッドチャートを活用したらよかった。(5・6年、中1、先生を対象とした防災フェスタの活動を決める)
- ・「対象の方にリーダーとしての資質になるために近づけるもの」という視点に沿って考えてはどうか。

白川ADの資料をもとに

★生き生きと取り組む姿＝主体的な学び手となっているとき

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ○自分事として取り組んでいるか | (夢中、没頭、切実、苦悩) |
| ○「問いかけ」ながら取り組んでいるか | (問い、思いや願い、躊躇) |
| ○見通しをもって取り組んでいるか | (予想、予測、ゴール反設) |
| ○楽しんで取り組んでいるか | (ワクワク、アイデア、提案、行動) |

ポイント!
内発的動機付け
情意面への働きかけ

- ・昨年度より、自分事として考える姿が見られた。
中3の子どもの考えはよく、自分事として考えていた。

**だからこそ、もっと子どもに任せてほしい。
子どもたちのやりとりで考えを深めていくこと**

男子：イベントを取り入れるという案は、人との交流が苦手な人がいるから時間がかかるかもしれない。
女子：体験しただけだと「あーおもしろかった」で終わりそうだから、イベント後に移住について呼びかけるなどしたらいい。
男子：「ぼくは安直やった。さすが」

★ノートを活用しよう (小4のノート)

- ・めあて まとめ ふりかえり 考えたことを書く
- ・4年5月のふりかえりより

「今日は3年の総合を振り返り、4年につながることを考えた。去年の4年と同じことはしたくない。同じことだけどゆずの青玉のことを知りたい。」

自分への問いかけを楽しんでいる。

- ・4年10月のふりかえりより

これから、もし北川村から出たとしてもゆずのよさを伝えて有名にしたい。

自分のこととして考えている。

★メタ認知の意識

- ・グループ活動では、自分で考えたこととみんなで考えた時とどう違うか

★思いや願いが出発点

★学校教育に求められていること＝社会全体に求められていること

- ・ 答えのない問題に対してどう進めるか。子どもだけでなく、大人でも求められている
「ゆず」などは、よい教材 ⇒地域で学んで育てる
- ・ 予測困難な時代に、一人一人が持続可能な社会の創り手となる人材づくり
- ・ 地域と一緒にカリキュラム作り

生活・総合が核
地域で学んで育てる

★生活科・総合的な学習の時間＝これからの社会で必要とされる資質・能力を磨くために直接的に学ぶ時間

- ・ 視点1：3つ（4つ）の探究課題を意識する
近代的な課題に対応する力
地域教材でどの視点で取り組むか焦点を絞ることも大切
- ・ 視点2：育成する資質・能力（総合の3本柱、教科を横断した資質・能力）
 - ① 言語能力の向上（昨年度より育っている）
 - ② 資料活用能力

学習の基盤となる力

★自己の生き方を考えることとは

- ・ 社会、自然との関わりにおいて、自らの生活や行動について考えていくこと
⇒社会の一員として何をすべきか、どのようにすべきかなどを考える。
- ・ 自分にとっての学ぶことの意味や価値を考えていくこと
自分の考えや意見を深めること。学習の有用感を味わうなどして学ぶことの意味を自覚すること。
- ・ 学んだことを現在および将来の自己の生き方につなげて考えること

★評価について

- ・ 知識・技能：概念化できるか
ねらいに適した思考ツールの活用を考えること / 子どもに任せることも大事
- ・ 学びに向かう力：社会参画等

★単元構想について

- ・ 小3の例を参照してほしい
- ・ チームで検討する
- ・ 戸部小の単元構想のチェックポイントを参照してほしい（問いのストーリー化）

★生活科・総合的な学習の時間における授業力について

- ・ 収束する時間を大切に
- ・ 授業を振り返り評価する力（単元全体を振り返る時間も大切に）



★研究組織について

- ・ 担当者や組織の設置 日頃から、地域と適切に関わろうとする姿勢を持つ

★全体計画について

9年間の学びの区切りをどうするか 本年度中に検討を

★探究的な学習を通して育つ子どもの姿

- ・ 事象をとらえる感性や問題意識が揺さぶられて、学習活動への取組が真剣になる。
- ・ 身に付けた知識・技能を活用し、その有用性を実感する。
- ・ 見方が広がったことを喜び、さらなる学習への意欲を高める。
- ・ 概念が具体性を増して理解が深まる。
- ・ 学んだことを自己と結び付けて、自分の成長を自覚したり自己の生き方を考えたりする。

探究的な学びを全教科で！

第3回公開授業(小1生活科)「たのしい あき いっぱい」

1学期は、春、夏みつけを行い、それぞれが見つけたものを表現し合う活動を行ってきました。今回は、秋みつけ。秋のものを図鑑やインタビューを通して調べたり、実際に学校周辺や家庭で見つかりしてきました。本時は、それぞれが見つけた秋のものを紹介することで、秋の特徴や季節の移り変わり、季節によって生活の様子が変わること気付くことをねらいとした授業でした。子どもたちは緊張しながらも、見つけた秋を自分の言葉で伝えようと頑張っていました。絵を描いたり、そのものを貼ったり、調べたことを書いたり、おもちゃを作ってみたりするなどの工夫が見られました。友達の発表を聞いたりする中で、秋ってどんな季節か考えることができており、「ぬるさむい」「秋と夏はふくがちがう」「はながあまりさかない」季節という声がありました。



前時までの活動を振り返る



自分が見つけた秋を紹介



図鑑で調べたことなども伝える



質問したり、感想を述べたり やりとり



子どもの声を板書



秋ってどんな季節か考える



「秋って【ぬるさむい】きせつ」



ふりかえり



大久保指導主事より

- 学級の支持的風土が醸成されている
- 就学前の学びを生かしている
 - ・保育の遊びや活動を生かしつつ、生活科のねらいに即して体験活動と表現活動が繰り返される単元構想
 - ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」等で接続
- 願いや思いの共有と学びの足跡の手立てがある
 - ・どんな願いをもって秋みつけの活動を始めたか
 - ・どんな学習をしてどんな力がついたか
 児童のメタ認知を高め、主体的な活動へつなげる手立て
- 気付きの質を高める工夫を
 - ・発表の際、児童の気付きの共通点（様子が変わるもの【へんしん】）（秋にあらわれるもの【はっけん】）など、児童の言葉を生かしてキーワードで板書で示すと、それぞれの気付きとつなげたり、自分の経験へ広げたりして、本時の「秋の季節の特徴に気付く」ことへつなげることができる。何のために紹介し合うのか、目的を児童と共有しておくことも大切。
- 児童の実態に応じて多様性のある活動を
 - 発表のシナリオを作らず、自分の言葉で気づきや思いを

伝えたからこそ、生き生きした反応も生まれ、双方向のやりとりができていた。いきなりの発表は緊張感もあり、時間がかかってしまった。隣同士で練習をさせておくなどしたら、安心感が生まれ、短時間で発表し、後半の秋の特徴について全体で深める時間の確保ができたのではないかな。

★今後に向けて

- 生活科で生かす「見方・考え方」は、身近な生活に関わる「見方・考え方」であり、身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする。今後、秋の遊びをつくる単元へ向かうであろうが、常時活動として朝の会等で見つけた秋を話題にするなどして、「花をかざろう」「行事を楽しもう」など、自分の生活に自然や季節を取り入れて生活を楽しくしようとする児童を目指してほしい。
- これまでの夏みつけの活動で身に付いた資質・能力が秋みつけでも生かされたように、他教科とも横でつながり、3年以降の理科、社会、総合とも縦につながっているという意識を持ち、実態に応じて本単元や本時で付けたい力を設定していくことが大切。

第4回公開授業(小6総合)「守ろう!北川ライフ! ~災害からみんなを守るために~」

「本当に村のためになることをしたい!」という思いから、防災をテーマとし、村民への意識調査、奥の地域の方へのインタビュー、各地区の避難所を訪問、防災マップ作成などに取り組んできました。これらの活動から、防災フェスティバルを行い、広く伝えることで皆の防災意識を高めたいということになりました。本時は、小5・中1・先生方を対象とした活動についてゴール像を意識しながら「実現可能か」「効果的か」という視点に沿って検討することをねらいとした授業でした。まずは個人思考、次にピラミッドチャートを活用しながらグループで検討、さらに全体で意見を出し合う活動を行いました。案の決定まではできなかったものの、質問や意見を出しながらより良い案に向けて真剣に考える姿が見られました。



前時のふりかえり



本時のめあてを考える



個人思考 いい案とその理由を考える



集団思考I ピラミッドチャートで交流



集団思考II 各班より発表



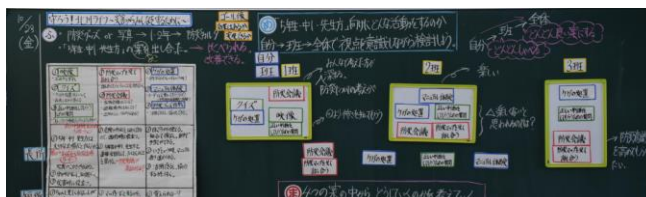
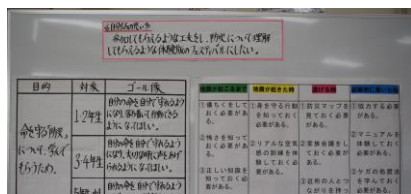
意見や質問をしながら深める



児童の意見を板書 問いかけ



ふりかえり



久武指導主事より

<協議を受けて>

- 後半：教師対個人のやり取り⇒もう一度グループに戻すとよい。
- 内容が絞り込めなかったのは、目指すゴール像が明確でなかったことにも要因があるのでは。例えば、3・4年「声を上げる」5年・中1・先生「目を向ける」とはどういう姿なのかを具体的にするとよい。

<課題設定について>

- 「本当に村のためになることがしたい」という子供の願いから設定されているので、子供が自分事として取り組んでいる。これまで、小4、小5でたっぴりと地域と関わり探究活動を繰り返してきたからこそ、このような願いが生まれている。
- 指導案からも分かるように、教師の意図的な働きかけがあったから、「村の防災対策を自分たちは全く知らなかった」「このままではいけない。何とかしないと」等、子供たちにこれまでの自分の考えとのずれや隔たりが生まれ、子供たちは本気になった。

<振り返りについて>

- 2つの意味で振り返りができている
- ①自らの学びの意味付け・価値付け(ノートの活用)→メタ認知に有効
- ②探究活動に対する振り返り→課題・問い・目的に対して活動が適切かを適宜振り返っている
例えば・・・「5年のPR活動で村が活性化したとは言い切れない」「『実現可能か』『効果的か』という視点」

「この案で目指すゴール像は達成できるのか」

<考えるための技法について>

- 本時だけでも「比較する」「分類する」「関連付ける」「多面的・多角的に見る」「理由付ける」等たくさんの技法を子供たちは活用して思考している。教師の説明がなくても、自分たちで話合いに思考ツールを活用することが習慣化している。

★<今後に向けて>

- 防災という探究課題で「本当に村のためになることができた」という達成感をもたせる。
- 単元の最後、評価規準「態度③」を見取る場面では、自分の変容だけでなく、これから村の一員として自分はどう防災や地域との関わりに取り組んでいくのかということも考えさせる。そしてそれを9人全員で確認し合うことで、「少なくとも9人は村の一員として防災に取り組む若い世代を確実に増やすことができた」という価値付けをし、「本当に村のためになった」という実感をもたせるとよいのでは。

第5回公開授業(中3総合)「豊かな地域社会の創造と自己の生き方を考えよう ～Out Future Project～」

本年度は、職場体験を通して、働くことの意義や必要な力を考えたり、村の課題を知り、課題解決に向けて取り組んだりすることを通して、自己の生き方を考える活動に取り組んでいます。村の人口グラフを見て課題を考えたり、村長さんから村の取組について聞いたりする中で、移住対策を進める必要があると考えた3年生。これまでに北川村、嶺北地区の移住対策について調べ、その中で、移住対策を進めるために「村に提案したいこと」「自分たちでできること」について考えてきました。本時は、各班で考えたことを発表し合い、「自分たちでできること」について座標軸を活用し、視点に沿ってより良い案を検討し合いました。これまでの体験や資料などの根拠をもとに自分たちの考えを積極的に出し合う姿が見られました。



前時のふりかえり



めあてを確認



Aグループの発表



Bグループの発表



自分たちでできることについて考えよう

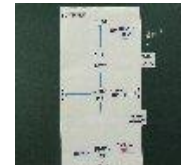


座標軸を活用して

<すぐできることか><効果的か>の視点に沿って意見を出し合う



ふりかえり発表



小松指導主事より

<単元について>

- 自己の生き方と北川村への貢献。最後に自己の生き方へという流れになっている。二つのことを並行させながら取り組んだことは大変だったが、生徒にとっては非常に意味があるものになった。
- 村が直面している課題に対して、中学生が課題解決に関わろう、チャレンジしようとする姿勢が素晴らしい。実際に嶺北地区にまで情報収集に行ったからこそ、実感できる北川村との違いを感じ、課題解決のアイデアをたくさん考えることができた。また、嶺北地区の取組を聞くことにより、北川村もいろいろな取組をしているんだと村の良さも実感することができたと思う。

<今日の導入について>

- ①生徒が調べてまとめたことを発表→②教員がポイントを模造紙に書く→③ポイントが書かれたラミネートを提示という流れだったが、すべて同じ活動にとれるので、初めから生徒にキーワードを付箋にして貼らせていたらすっきりしたのではないかと。(導入で25分)

<思考させる場面について>

- 座標軸を使い、キーワードで思考を深めさせる活動であった。座標軸のいいところは視点が示されているところである。視点をどのように設定するかで、学習の方向性が変わってくるので留意されたい。
- 「すぐできる⇔時間がかかる」「効果大⇔効果小」という視点をもっと明確(具体的に)
例えば「2学期までにはできる⇔時間がかかる」「自分たちでできる⇔

村に提案する」という視点でやれば、生徒が事前にまとめたことがすべてこの座標軸で解決できるのではないかと。

- 先生と生徒7名で一緒に思考したが、生徒だけで思考する時間にすればよかった。もっと思考が深まったと言える。非常にもったいない。

★<今後に向けて>

- 「村に提案すること」と「自分たちができること」それぞれの活動を通して、村の在り方と自己の生き方を関連付けることができ、地域社会の一員としての存在に気付くようになるといい。

<協働とは>

- 地域活性化について提案することが目的ではなく、地域の良さを感じ取ったことを常に意識させながら活動することが大切である。決まった答えのない探究的な学習だからこそ協働的な学習の良さが見えやすいという面がある。
- 人工知能がいかに進化しようとも、答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見いだしたりすることができる強みを持っていることを私たち教員がしっかりと意識しておくことが大切である。



振り返りより

小1授業



- 公開授業は、今後の本校の授業に大変役立つものでした。
- 先生と子どもたちが、日々楽しく活動していることがよく分かりました。
- 振り返りの時間を確保するために時間配分をどうしたらいいか、工夫する手立てを教えてくださいました。**子どもの思考の流れが分かる構造的な板書**を作っていくために、**子どもから出たつぶやきを板書に残していくことが大切だ**と思った。言葉が残っていることで思考がつながり、全体の**気づきの質が高まっていく**のではないかと感じた。
- 分科会では、いろいろな先生が違う視点で見てくれた意見や感想を発表してくれたので、良い勉強になった。

小6授業

- 発問が、**考えなければならないもの**になっていて、**子どもたちがよく考え、取り組んでいる**と感じました。いつものように言いたいことが言える**雰囲気**なんだろうなあと感じました。**全体で練り合う場面の難しさ**と**大切さ**を改めて感じたことでした。
- 子どもたちがいきいきと発表し、課題に取り組んでいる姿がありました。それを引き出す**目的意識、相手意識がはっきりとした単元構成、課題設定**があり、改めてこうした**意識の持たせ方が大切だ**と感じました。さらに、先生が、子どもに言わせるように問い返している姿が印象的でした。とってもいい**雰囲気**だと感じました。
- 児童が、**自分のこととして真剣に考える姿**がとてすばらしかったです。**今までの取組の掲示物**を見させていただいて勉強になりました。
- 昨年度からの取組がしっかりと積み重ねられていてすばらしかったです。子どもが自分のこととして課題に向き合って探究していく姿**は見習わなくてははいけません。大変参考になりました。
- 子どもの思考を先生が切り返しなが**ら深めていっており、**どんどん子どもは探究が進んでいく授業だ**と感じました。時数等制限がある中、**どう折り合いをつけて進めていくのか、次時につながり、**楽しみな授業でした。
- 視点を示していたので、子どもがそれに沿って思考**できていた。
- 子どもとのやりとりの中で、**みんなで考えると、一人で考えることよりも楽しい！成長できる！**と思えることを1つ1つ実践として積み上げていきたい。**常に地域のよさを頭に浮かべて授業に取り組める生徒**になってほしい。
- 2年間の指定事業を受けて総合の学習をすることで、**子どもたちにはいろんな面で力がついた**と思う。子どもたちの振り返りを讀んだり、授業の発言を聞いたりして、教師側も次の時間の構成などを考えていくので、**子どもも教師も本気になって取り組むことのできる学習**だと改めて思った。今回の実践や研究をこれからも生かしていきたい。
- 学習内容や展開がよく練り上げられており、子どもたちも課題に迫るため、個人からグループの検討の中で**自分の考えを堂々と述べる**ことができているのがすばらしい。**思考ツールの使い方も適切で、子どもたちもうまく使いこなせていました。**
ただまとめの段階で、**うまくまとめて終えることができなかったのが惜しい**と思いました。
各班からひとつずつ出せば、全体で3つとなりまとめやすくなると思いました。



中3授業

- 自分事として堂々と発表**する7名の中学生。「私は・・・」「私自身・・・」など、思ったこと、考えたこと、感じたことを**自分の言葉で発表、すこかったです**。本校に帰り、先生方と自分の在り方を振り返ることができる研究会になりました。
- 本校もこの事業1年目ですが、なかなか生徒の自発的、積極的な意見が出ず、つい教師主導になってしまい、手さぐり状態です。北川中3年生が大きく成長したことのこと。白川先生の助言をいただいて取り組みます。
- 北川村のことを真剣に考え、自分たちができることを一生懸命話し合っている姿**がとても素敵でした。村長にインタビューしたり、嶺北の人たちとの交流など、**行動力があり、参考**になりました。
- 公開授業では、**内発的動機づけや情意面への働きかけ**ができていたので、**自分事として取り組んでいる生徒が多く見られた。**
(自分の思いや考えを伝えることができていた生徒がいた) **既習事項を振り返り、関連づけて考えられている生徒がいた。**
- ピラミッドチャートや座標軸をうまく活用する。メタ認知**（授業に取り入れる）→**グループで考えることで意見が深まる。**
- 総合的な学習の時間を通して、人間の強みである「**答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら、目的に応じた納得解を見出す**」という力を鍛えていくということを、改めて確認した。
- 「**振り返りを讀んで、次の時間の内容を決める**」ということを改めて確認することができた。**中3くらいになったら、大人（地域で働く人）として、生徒たちと意見交換ができるくらいに生徒を育てたい**と思った。
- 思考ツールの活用はやはり生徒に任せるべきだった**と思った。その方が、もっと活発に意見交流ができた。また、板書として、A・Bグループのキーワードを書いたが、生徒の発表用模造紙で代用すれば、座標軸を使ってもっと交流する時間がとれた。
- 昨年度と比べると、生徒の発言も増え、発表も堂々とできていた**と思います。助言にもあった通り、**座標軸を用いて子どもたち同士で話し合わせたり、事前にA・Bで座標軸を考えておいたりしたら、さらに意見がでたのでは**と思いました。総合の時間を通して、**人とのつながりを実感し、村のことをより考える時間が増えているな（生徒も教員も）**と改めて感じました。

全体会

- 実践例や実際の子どもの姿から目指すべき授業について改めて考えることができました。**切実な問いをもつことができる教材研究**を続けていきたいです。
- たくさんの掲示物や資料があり、すばらしく、大変参考になりました。**授業を2つは見たかったなと思いました。
- 白川先生の講話から、**子どもたちへの内発的動機づけや情意面の働きかけ**に対して、どう意識させていくかよくわかりました。
- ノートづくりや思考ツールなど、授業の中での取組と、**加配教員として記録や発信などの取組**が参考になりました。
- 北川小の取組を参観し、**児童が主体的に考え、活動できる教材開発**や**言語能力を鍛えていきたい**と思っています。
- 試行錯誤している中で、**取り組む道筋が少し見えてきました。**学んだことを生かして推進していきたいと思います。
- 地道な取組、すばらしい**と思います。**すばらしい成果物（それぞれの活動がよく分かった）、**今後刺激を受けて取り組みます。
- 北川村コミュニティ・スクールのパンフレットが大変わかりやすく、北川村の子育て教育ビジョンがはっきりしており、北川村の15年間の子どもへの教育への強い意欲を感じました。**
- 生活・総合の授業で大切にしていかなければいけないことを教えてもらって良かった。**（視点を明確に、広がりすぎないなど）**
- 振り返りを生かした授業づくりの大切さ**を感じた。**前時に書いたものを本時の導入に生かす、自分の授業の評価に生かす。**
 - ・子どもがどの段階まで到達しているのか
 - ・まだ分かっていないのか
- 子どもを信頼して任す**
- 思考ツールを効果的に使う**



北川小中学校 公開授業研究会 アンケート （保護者、地域の方）

- 初めて公開授業を見せてもらいました。緊張する様子もありましたが、**質問もきちんとできており、友達を思いやった発言**も聞いて、良い雰囲気でした。知らない所で自分なりに調べて、分かりやすくまとめたことも、**成長を感じ、驚きました。**見ていて楽しかったです。（小1保護者）
- 防災について様々な意見を出して話し合うことで、意識を高めることができている**と感じました。**子どもたちに教えられることが多々ありそうです。**（小6保護者）
- 北川村の防災のことをよく調べていてよかった。**現場の確認が大切。全部調べていい**と思います。（小6保護者）
- 今までの授業の仕方と違い、**自分たちの意見が重視されていて興味深い。**次回が楽しみです。（小6保護者）
- グループ別に話し合いができていて、**全員が身近な内容で自分の考えを発表できてよかった**と思う。もし災害が起こったら自分たちがどう行動するか学習すると、**親のいない時間でも適切な行動ができる**と思うのでよかったです。（小6保護者）
- 北川村に住むデメリットを抽出し、そこを補うよう中学生なりのメリットをよく考えている**と思った。大人の視点として、収入の確保、利便性、治安のよさ（地震）はとても大切なので、移住促進の課題として挙げられていて、**先日の体験学習が活かされている**と思う。**みんなで考え、意見を出し合う姿がよかった**です。（中3保護者）
- 放っておけば、村の人口は少なくなる一方で、北川村の若い人が多くいると感じる中、生徒たちの取組は、**今後の村のために必要な意見ばかりで、とても良い**と想った。生徒たちにとっても有意義な授業だと思いました。**自ら考えてアイデアを出し合い、実現につなげていくことは、生徒たちの成長にも大いに反映される**と思う。
- 他の地域の仕組みを知り、北川村に置き換えてできることを考えている。**具体的に多方面にわたって考えを巡らせていることが良かった。**移住者目線で考えられていて、北川村が叶えられているもの（現実的）を整理**できている。**今ある北川村の制度や強みをしっかりと見て、外にPRできる（知ってもらう）ような戦術を考え始めている。**自分たちができそうなことを座標において、**見える化をすることで考えの統一が図られ、皆で頑張りやすい環境**ができていた。頼もしく感じました。**もっと生徒達の意見を聴くことも大事**だと思う。（中3保護者）
- 大人だけでなく、**今村に住む若い世代の目線で見た時、何が足りないか、何が必要か、思うだけじゃなく声に出しそれを実現できるように**なるといいですね。「ゆず」や「慎太郎」以外の良さも見つけてほしいです。（中3保護者）
- 各学年、時間が少しずつとなりましたので、やはり**各学年ゆっくりと見せていただきたい**と思いました。いい時間を過ごさせてもらいました。（地域の方）
- 子どもたちの北川村愛が詰まった発表**でした。今後の移住促進に取り組めることについては、**取り組めるように働きかけます。**（北川村産業課）